

聖書日課 『からし種』 2020.7.12-7.19

<p>7月12日 (日)</p> <p>ヨブ記 16章</p>	<p>「天にはわたしのために証人があり、高い天には、わたしを弁護してくださる方がいる。わたしのために執り成す方、わたしの友、神を仰いでわたしの目は涙を流す」(19-20節)。 友人にも家族にも理解してもらえないヨブにとって、神のもとに必ずヨブを守ってくれる弁護者がいることに期待するほかない。イエス・キリストがわたしと神の間を執り成してくださる</p>
<p>13日 (月)</p> <p>ヨブ記 17章</p>	<p>「どこになお、わたしの希望があるのか。誰がわたしに希望を見せてくれるのか」(15節)。ヨブの「息は絶え、人生の日が尽きる」ほどの苦しさ。未来は「墓があるばかり」のヨブは、その苦しみの中にあっても、ヨブ自身の味方になってくださる方は主なる神だけだと告白する。コロナ禍を生きるわたしたちに味方してくださるのは、十字架のキリストだけなのだろう。</p>
<p>14日 (火)</p> <p>ヨブ記 18章</p>	<p>「まず理解せよ、それから話し合おうではないか」(2節)。友人たちはヨブの苦しみになお伴うことなく、ヨブに神が罰を与えられたという事実を納得させようと試みる。友人たちの行動がどれだけの慰めになったのだろうか。キリストの福音を受けた者として、生きる希望を失わせる言葉ではなく、苦しみの中でも共に生きる言葉を語る主の希望を分かち合いたい。</p>
<p>15日 (水)</p> <p>ヨブ記 19章</p>	<p>「わたしは知っている／わたしを贖う方は生きておられ／ついいには塵の上に立たれるであろう」(25節)。友人たちとの対話を繰り返す中で、ヨブは、試練とは自分の罪や先祖の罪の結果でもないし、その苦しみを贖って下さる神がおられることを知る。わたしたちも苦しみの中でも、伴って下さる神を仰ぎ見つつ、礼拝し続けることを選び取ることができるだろうか。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

<p>16日 (木) ヨブ記 20章</p>	<p>「神の怒りの日に、洪水が起こり／大水は彼の家をめぐい去る」(28節)。神に逆らう者の末路ははかなく、無価値な塵しかないとツォファルは語る。コロナや、全国で起こった大雨による被害は神の怒りなのか。大雨によって被害を受けた地域の罪なのか。大水によって家が流された人たちが何をしたというのか。神に逆らう者に神が命じた嗣業とは何なのか。</p>
<p>17日 (金) ヨブ記 21章</p>	<p>「藁のように風に吹き散らされ、もみ殻のように、突風に吹き飛ばされたことがあるか」(18節)。不条理に苦しむ人たちが、藁のように吹き散らされ、もみ殻のように吹き飛ばされる現実の中で、主の裁きの基準はどこにあるのか。しかし、聖霊の風に飛ばされて主が運ばれる先に行けるのであれば、藁やもみ殻として喜んで生きることができるのかもしれない。</p>
<p>18日 (土) ヨブ記 22章</p>	<p>「人間が神にとって有益でありえようか。賢い人でさえ、有益でありえようか。あなたが正しいからといって全能者が喜び／完全な道を歩むからといって、神の利益になるだろうか」(2～3節)。エリファズの語る神の前での「人間観」は的を得ている。神のために利益を生み出さない者を神はなぜこの世に生かしてくださっているのだろうか。神の計画に期待したい</p>
<p>19日 (日) ヨブ記 23章</p>	<p>「どうしたら、その方を見いだせるのか。おられるところに行けるのか。その方にわたしの訴えを差し出し、思う存分わたしの言い分を述べたいのに」(3-4節)。苦しみの人ヨブの切実な願いは、神に直接出会い、疑問のすべてを思う存分ぶつけること。このヨブの叫びを真正面から受け止め、救ってくださる方、十字架の主に、今朝も命の言葉を求めて集おう。</p>